古典文法トレーニング　長文課題　品詞分解と現代語訳

大問二六（出典：『無名草子』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

「そ の（格助（体修））『枕草子』こそ、（係助）心のほど見えて（ヤ下二・用／接助）、いとをかしう（副／シク・用（ウ音））侍れ（丁（女房→老尼））（※1）。さばかりをかしく（副／シク・用／係助）も、あはれに（ナリ・用）も（係助）、いみじく（シク・用）も（係助）、めでたく（ク・用）もあることども（ラ変・体）、残らず（ラ四・未打消・用／カ四・用／サ四・用／完了・体）書き記したる中に（格助）、宮（格助（主格））の（格助）めでたく（ク・用）盛りに（ナリ・用／カ四・未尊（女房→定子））時めか（四・用）せ（尊（女房→定子））給ひ（過去・体）しことばかりを（副助／格助）、身の毛も（タ四・体／副助）立つばかり（カ四・用／ダ下二・用）書き出で（ダ下二・用）て、関白殿失せ（サ下二・用尊（女房→関白））給ひ（四・用受身・用尊（女房→内大臣））、内大臣流され（サ四・用）給ひ（尊（女房→内大臣））なども（副助）せ（サ変・未過去・体）しほどの（連語）衰へをば（副）、かけても言ひ出でぬ（ハ四・用／ダ下二・未打消・体）ほどの（シク・体）いみじき心ばせなりけ（断定・用／過去婉曲・体）む人（シク・体）（※2）の（シク・体）、はかばかしき（シク・体）よすがなども（副助）なかりける（ク・用／過去・体／断定・用／係助）に（断定・用）や（係助）、（※3・4）乳母の（断定・用／過去・体）子なりける者に（格助）具して（サ変・用）、遥かなる田舎に（ナリ・体）罷り（謙（女房→定子））て（マ四・用／過去・体）住みける（四・用／過去・体）に（接助（偶然））、襖などいふもの干しに（ナ変・用）外に（ダ下二・終／格助）出づとて（四・終／格助）、『昔の直衣姿こそ（係助）、忘られ（ラ四・未可能・未打消・已）ね（格助）』と独りごちけるを（ラ四・未可能・未打消・已／格助）見（マ上一・用）侍り（丁（女房→老尼））けれ（過去・已／接助（偶然））ば、あやしの（ナリ・用）衣着（カ上一・用）て、つづりといふもの（ハ四・体／格助）帽子にして（サ変・用／丁（女房→老尼））侍りけるこそ（過去・体／係助）、いとあはれなれ（ナリ・已）。まことに（副）、いかに昔恋しかりけ（ク・用／過去原因・体）む（副助／ハ四・終）」など言ふ。

※1：この文章は、老尼が京都東山の檜皮屋で女房たちの論評を聞き、それを記述したという構成である。

※2：この文章の前段で女房は清少納言を批判的に捉えているため、ここは皮肉として肯定的に評している。

※3：「疑問語～推量系＋、」は挿入句である。ここは筆者の感想や主張であって、実方の思いではない。

※4：「にや」「にか」は「あらむ」を補う。「に」は断定、「む」は推量である。

◎現代語訳（『ステップアップノート30　古典文法トレーニング』参照）